

幼児の造形活動における廃材利用について

Reusing Waste in Infants' Art Activities

中 田 稔

キーワード：廃材、乳幼児、造形活動、造形遊び

1. はじめに

「幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として第2章に示すねらいが総合的に達成されるようにすること。」¹⁾と「幼稚園教育要領」の総則にあるように、幼児期の遊びは生涯の基礎となる重要な学びと捉え、自発的な遊びが展開されるように、保育者は適切な指導を行う必要がある。また「幼稚園教育要領」のみならず「保育所保育指針」や「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」にも共通に示された「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」の1つとして「(10) 豊かな感性と表現」があるが、その具体的な姿として「様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現」²⁾すると述べられている。

では、これらの視点を踏まえながら、改めて乳幼児の造形活動に欠かせない材料に目を向けると、どのような材料を用いた活動を行えば、自発的な遊びが生まれ「育って欲しい姿」が示す感性豊かな子どもを育てることができるのであろうか。本稿では、廃材をそのような遊びが生まれる材料の一つとして捉え、乳幼児の造形活動において、廃材を積極的に活用する意義を提起するとともに、その具体的な実践を提案することを目的とする。

2. 廃材利用の現状

保育現場においては日々の造形活動の中で様々な材料が用いられるが、使用目的や加工の難易度等によって発達年齢に適した材料が使用されるのは言うまでもない。ただ、そればかりではなく、季節や地域、広くは時代によって入手のし易さの有無等により使用される材料には変化が生じる。このことについては、かつて筆者が児童期における造形活動にどのような廃材が使われてきたかを、戦後から今日までに出版された小学校図画工作科の教科書を用いて調査した。³⁾そして、教科書に掲載された題材における廃材の利用状況は、それぞれの時代の生活様式や社会状況を反映しているとの見解を示した。乳幼児の場合、小学校の教科書のように指標となるものが存在しないが、おそらく、廃材の使用に関しては児童と同様に時代的な推移があると考えられる。ただ、乳幼児の場合は、児童以上に表現活動における表現と材料との関わりが生活に密着していると言える。それは例えば、児童の造形活動が、主に図画工作科という教科学習でのみ行われるものであるのに対して、乳幼児の場合のそれは、日常生活や遊びと密接に関係し、時には遊びの延長として、また遊びの一部として行われるものだからである。

そこで、このような乳幼児期の特徴を踏まえた上で、前述したように使用材料に視点を当てて乳幼児期の造形活動を考える時、やはり生活の中から生み出される廃材に着目すべきではないかと考える。

ここで言う造形活動における廃材とは、日常生活の中で頻繁に利用され、その本来の役目を終えた後に子どもの造形活動に用いられる材料と定義する。そして、筆者が廃材に着目するもう一つの理由としては、詳細は後述するが、廃材の持つ廃材ならではの特徴が、子どもの自発的な遊びを生み、豊かな感性や表現に繋がると考えるからである。

それではまず、保育園や幼稚園では、どのような廃材が多く使用されているのであろうか。2017年に津山市保育協議会の研究グループが市内12園141名の保育者を対象にした「子どもを主体とした遊びと環境に関するアンケート調査」⁴⁾によると、保護者から提供されたり、保育者が自ら集めたりして集まりやすい材料としては、収集しやすい順に以下のものが挙げられている。「牛乳パック、新聞紙、ペットボトル、トイレットペーパーの芯、ペットボトルのキャップ、プリンカップ、空き箱、段ボール、テープの芯、食品トレイ、ラップの芯、包装紙、卵パック、木片」。そして、3歳未満児、3歳以上児ともに多く用いられる廃材は、牛乳パックや空き箱、ペットボトル、プリンカップで、これらの廃材の利用は自由遊びよりも設定保育で使われている傾向があった。

さらに廃材の利用等に関する他地域の調査や詳細なデータを求めたが、入手することができなかった。そこで、小学校の教科書題材について調査した方法で、いくつかの資料に当たることにした。乳幼児の場合、小学校の教科書に匹敵するものがないので、現在筆者が授業で使用しているテキストや、保育関連の書籍や雑誌から大まかな傾向を調べることにした。

3. 年齢による廃材利用の傾向

まず、筆者が担当する科目で使用している授業用テキスト『保育内容 表現』⁵⁾は、第Ⅰ部理論編、第Ⅱ部実践編からなる2部構成のテキストであるが、実践編には0歳児から6歳児までの造形遊びの事例が48事例掲載されており、それぞれには「準備物」として実践に必要な材料が記載されている。そこで、これら一つ一つの実践事例にどのような材料が使用されてい

表1 授業用テキスト内の題材における廃材利用

| 実践事例 | 記載事例数 | 廃材使用事例数 | 準備物として記載されている廃材 |
|-----------|-------|---------|--|
| おおむね0歳児 | 4 | 4 | 段ボール、牛乳パック、気泡緩衝材、ペットボトル、ミルク缶、紙管、乳飲料容器 |
| おおむね1歳児 | 6 | 6 | 段ボール、プラスチック容器（プリンカップなど）、新聞紙、牛乳パック、空き箱、ペットボトルの蓋、紙管、乳飲料容器、テープの芯 |
| おおむね1～2歳児 | 1 | 0 | |
| おおむね2歳児 | 8 | 8 | 段ボール、プラスチック容器（プリンカップなど）、牛乳パック、空き箱、ペットボトルの蓋、スチロールトレイ、乳飲料容器、シュレッター用紙 |
| おおむね3歳児 | 9 | 2 | 発泡スチロール、プラスチック容器（プリンカップなど） |
| おおむね4歳児 | 9 | 2 | プラスチック容器（プリンカップなど）、王冠 |
| おおむね5歳児 | 4 | 0 | |
| おおむね5～6歳児 | 6 | 0 | |

るかをチェックした。その結果が（表1）である。

この表からは、廃材を利用した題材が「おおむね2歳児」までに多く、「おおむね3歳児」以降の題材ではほとんど用いられていないことがわかる。そしてこれら低年齢児では、子どもが廃材を用いて何かを製作するという用いられ方ではなく、保育者が段ボール箱に穴を開けて子どもが通って遊ぶトンネルを作ったり（事例1 おおむね0歳児「いない いない ばあ」）、空き箱の中にペットボトルの蓋などの小物の廃材を入れて包装紙で包んで提供し、子どもが指先を使って遊んだりする題材（事例15 おおむね2歳児「プレゼントをどうぞ」）のように、保育者が廃材で子どもが楽しく遊べるものを作ったり、提供したりしている例がほとんどである。

次に保育者向けに出版されている保育雑誌も調べてみた。日々の保育のアイデアとして掲載された造形関連の特集記事から、ここではどのような廃材が使用されているのかを確認した。対象とした雑誌は、隔月で発行される『新 幼児と保育』⁶⁾とその増刊号として季刊発行される『0・1・2歳児の保育』⁷⁾である。

前者は、3歳以上児の保育を中心とした雑誌であり、2021年4・5月号から2022年2・3月号までの6冊を調査対象とした。また、後者は、3歳未満児の保育を中心とした雑誌であり、2021年夏号から2022年春号までの計3冊を対象とした。前者は、特に年中行事に関わる造形活動の特集が組まれており、四季折々の園での行事に関連した製作が紹介されている。それらの記事の製作例として掲載されている材料の中から廃材を抜き出してまとめたものが、(表2)『新 幼児と保育』誌と(表3)『0・1・2歳児の保育』誌である。

これらの2誌を比べると、(表1)のテキストの例とは逆に3歳以上児で多くの廃材が用いられているように見えるが、掲載されている参考作品の数に違いがあるために単純な比較はできない。ただ、ここで特徴的なのは、3歳以上児向けの雑誌の場合、「○○を作ろう」という見出しが多くみられるように、季節や行

事に関連した小物や室内に飾れる物を作るという工作的な題材がほとんどである。これはおそらく、このような雑誌の購読者のニーズが、いわゆる保育のアイデアに困った時のネタを求めるという傾向にあるためと考えられる。そのため、作品として成立するかどうかの不確定な要素の大きい、材料をもとにして子どもが自由に発想するような題材は見当たらない。また、3歳未満児向けの雑誌では、保育者が作って遊ばせるという題材が多いことは前出のテキストと同様であるが、音や手触りを楽しむような感触遊びを重視した題材が多く、着られなくなったベビー服を活用してぬいぐるみを作製するようなユニークな廃材の活用法も紹介されている。⁸⁾

さらに造形活動の題材が多く掲載されている3冊の書籍についても、それらに紹介されている題材の廃材の利用状況を調べてみた。これら3冊の書籍は、同一の著者によって著されたものである。『0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ』⁹⁾(以下A誌)は、低年齢児の造形遊びの実践について43題材が写真や文章で具体的に紹介されている。また、姉妹編である『2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ』¹⁰⁾(以下B誌)では、造形技法の基本の紹介とその技法を用いた実践について紹介されており、31の技法と21の実践が掲載されている。さらに絵画表現を中心にした『3・4・5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ』¹¹⁾(以下C誌)では、四季を通じた41の題材が紹介されている。これ

表2 保育雑誌内の題材における廃材利用1

| 刊行時期 | 特集記事 | 材料として記載されている廃材 |
|------------------|-----------------|--|
| 2021年4・5月 | こいのぼり&おもしろかぶと | 牛乳パック、新聞紙 |
| 2021年6・7月 | 七夕を飾ろう! | トイレットペーパー芯、トイカプセル、牛乳パック、気泡緩衝材 |
| 2021年8・9月 | 夏の水遊び&室内遊び | ペットボトル(大・小)、ペットボトルの蓋、乳飲料容器、カップ麺容器、スチレントレイ、薬瓶の蓋、段ボール、トイカプセル、広告紙、新聞紙 |
| 2021年10・11月 | 子どもと作って遊ぶハロウィーン | 新聞紙、段ボール |
| 2021年12月・2022年1月 | クリスマス手作り飾り | 段ボール、牛乳パック、トイレットペーパー芯、 |
| 2022年2・3月 | 鬼を作ろう!豆まきしよう! | 気泡緩衝材、スチレントレイ、トイレットペーパー芯、ラップ芯、ペットボトル、プラスチック容器(プリンカップなど)、段ボール |

表3 保育雑誌内の題材における廃材利用2

| 刊行時期 | 特集記事 | 材料として記載されている廃材 |
|---------|-----------------------------|-------------------------------------|
| 2021年夏 | 台所用品で水遊び かんたん手作りおもちゃ | 卵パック、ペットボトル、段ボール |
| 2021年秋冬 | 手作り布人形&ぬいぐるみ かんたん手作りおもちゃ | ベビー服、ペットボトル、段ボール、牛乳パック、乳飲料容器、トイカプセル |
| 2022年春 | こんにちは人形 かんたん手作りおもちゃ | ティッシュペーパーの箱、段ボール、筒状菓子箱、気泡緩衝材 |

表4 A誌内の題材における廃材利用

| 廃材 | 使用回数 | 廃材 | 使用回数 |
|----------|------|---------|------|
| プラスチック容器 | 11 | フィルムケース | 2 |
| 段ボール | 10 | 緩衝材 | 2 |
| 乳飲料容器 | 9 | 新聞紙 | 2 |
| ペットボトル | 7 | テープ芯 | 1 |
| 空き箱 | 5 | カップ麺容器 | 1 |
| 牛乳パック | 3 | 包装紙 | 1 |
| ペットボトルの蓋 | 3 | シュレツダー紙 | 1 |
| 紙管 | 2 | 発泡スチロール | 1 |

表 5 B誌内の題材における廃材利用

| 廃材 | 使用回数 | 廃材 | 使用回数 |
|----------|------|-------|------|
| プラスチック容器 | 3 | 包装紙 | 1 |
| 乳飲料容器 | 1 | 気泡緩衝材 | 1 |
| スチレントレイ | 1 | | |

表 6 C誌内の題材における廃材利用

| 廃材 | 使用回数 | 廃材 | 使用回数 |
|-----------|------|-------|------|
| トイレトペーパー芯 | 1 | 気泡緩衝材 | 1 |
| ラップ芯 | 1 | | |

ら3冊の書籍内の題材における廃材の利用の状況は、(表4)、(表5)、(表6)の通りである。

以上3誌の結果を比較すると、同一の著者で、全ページ数も同一で、掲載実践数もほぼ同じ保育の造形関係の書籍でありながら、廃材の使用頻度には著しい違いが見られる。低年齢児の造形あそびの題材を収めたA誌では、16種類の廃材が、延べ61回掲載されている。それに対して、技法や絵画表現の題材を中心としたB誌とC誌は、それぞれ5種類、延べ7回、3種類、延べ3回と極端な差が生まれている。そして、B誌で用いられているプリンカップなどのプラスチック容器は、材料としてではなく絵の具などを入れる容器、つまり用具として用いられている場合であり、絵画表現等の活動での廃材の使用は、ほとんどされない状況と考えても良いだろう。

これらの調査は誌面上でのものであり、実際の保育現場の実態とは乖離がある恐れもあるが、これらの結果のみから考察すると、乳幼児における廃材の利用は、3歳未満児での利用が圧倒的に多く、3歳以上児で絵画製作を中心に保育が行われる場合は、廃材はあまり用いられない傾向にあると考えられる。

4. 3歳以上児における廃材利用と造形遊び

では、3歳以上児に対して廃材は、あまり必要のない材料なのだろうか。確かに、絵画製作では不要か

もしれない。しかし、工作や造形遊びにおいては、廃材はやはり魅力的な材料であると考ええる。

造形活動における遊びとその楽しさについて、以前拙稿で以下の4点を提起した。¹²⁾

- ① 自分が何かになったり、何かを何かに見立てたりして遊ぶ楽しさ。
- ② 身体感覚を使って探索や発見をする楽しさ。
- ③ 同じ行為を繰り返す楽しさ。
- ④ 他者と関わる楽しさ。

この4点を指標として、廃材の特徴やよさについて考察すると、廃材を用いた造形活動の場合、特に①と③の遊びの楽しさを有すると考える。

例えば、①について考察すると、廃材という材料の多くは、元々は子どもたちの身近な生活の中で用いられ、その役割を一旦終えたものである。そのため子どもたちは当然、本来の使用目的で用いられていた時の姿を知っていて、親和性が高いと言える。それが材料として子どもたちの目の前に再び現れた時に、子どもたちは、従前の姿をイメージして使い方を考えたり、逆に今まで考えられなかった方向から廃材を見直したりして、何かに見立てたり、新しい何かを生み出そうとしたりする。例えば、空き箱を、物を入れる箱としてごっこ遊びに使うというように、元々の箱としての利用の仕方では用いられる場合もあれば、同じごっこ遊びの中でも空き箱が車になって物を運んだり、人形の家になってままごと遊びを楽しんだりすることも考えられる。

また、③の同じ行為を繰り返すという点について、材料の視点から考えると、並べたり積んだりのような行為を繰り返すためには、多量の材料が必要となる。その際に他の材料に比べて廃材の持つ優位性として、まず、コストがかからないという良さがある。一般家庭に広く普及してリサイクルのために保管されているような容器等であれば、容易に無償で大量の材料を手に入れることができる。また、牛乳パックやペットボトルの蓋などは、規格が均一の為、並べたり積んだりしやすいという材料自体の良さもあり、特に幼児の構成遊びにおいて廃材は欠かせない材料と言えるであろう。

う。

②と④の遊びの楽しさについては、特に廃材の優位性が感じられるわけではないが、②の身体感覚を使って探索や発見をする楽しさ、つまり材料と五感で関わるということに関して言えば、木片などは、手触りや匂いや重量感、音なども感じる事ができる優れた廃材であると言えるだろう。

そこで重要なのは、年齢が上がってもこのような材料をもとにした造形遊びを保育の中でしっかりと行うことだと考える。手の巧緻性が高まり、様々な用具を扱うことができるようになったり、巧みな表現ができるようになったりすると、どうしても工作や絵画といった作品としての出来映えを求める活動に偏りがちである。

例えば、前出の筆者が授業用に使用しているテキストでは、実践編には「造形遊びの事例から学ぼう」という見出しがついていて、48の造形遊びの事例が紹介されている。しかし、廃材の使用が減る「おおむね3歳児」以降の題材は、「色紙遊び」（おおむね4歳児）や「土粘土遊び」（おおむね5～6歳児）のように、廃材ではなく市販の材料を用いた題材の掲載が目立つ。また、「りんごの森へ行ってみよう！」（おおむね4歳児）「経験したことを描いてみよう」（おおむね5～6歳児）のような絵画表現の題材も散見される。幼児の造形遊びについて、その定義をどう考えるかについては見解の分かれるところであり、広義に解釈をして絵画表現や工作も造形遊びと捉える考え方もあるので、「造形遊びの事例から学ぼう」という見出しを単純に否定することはできない。ただ、小学校図画工作科で行われる造形遊びの「材料からの発想」というコンセプトを乳幼児の造形遊びにも当てはめて、造形遊びを狭義に捉えると、やはり年齢が上がるにつれて造形遊びよりも描画や工作といった、結果が作品として目に見えやすい活動が好まれる傾向にあると言わざるを得ないだろう。このあたりは、小学校の造形遊びが、未だに十分に理解や実践がされていない現状ともリンクするが、描画や工作を決して否定する訳ではなく、どのような造形活動であっても子どもの自発的な創作

意欲や発想を尊重し、遊びの楽しさを基本とした活動であってほしいと願う。

そこで、「3歳以上児で廃材を用いた造形活動を行うと、見立てたり、同じ行為を繰り返したりする活動が、より活発に行われる」という仮説を立て、廃材として扱われる木片を用いた実践に取り組むことにした。

5. 廃材を用いた実践と調査

3歳以上児を対象にした廃材を用いた造形遊びを、筆者が担当する美術大学附属幼稚園の放課後特別教室「造形遊び教室」において以下の要領で行った。

(1) 調査目的

- ・幼児の造形活動において製材等で廃棄される木片を使用すると、他の造形素材と比較してどのような表現や遊びの違いが生まれるかを調査し、現代社会で求められる持続可能な社会の実現の観点から、造形活動での廃材の有効活用の方法を探るとともに、園児の主体的で創造的な造形活動のための造形素材のあり方について考察する。

(2) 調査内容

- ・同一の題材で、園児の木片を使用した造形活動と、紙を使用した造形活動では、どのような表現や遊びの違いが生まれるかを観察し、素材と表現の関係について分析及び考察する。紙は白ボール紙を使用する。木片については、学科行事の制作で生じた廃材及び、外部の木工教室で生じた廃材を使用する。ほとんどが同一の裁断の際に生じた物のため、形や大きさが均一の物が多い。（表7）

(3) 対象者

- ・本調査に同意した「造形あそび教室」参加園児25名
年中児8名（男5・女3）
年長児17名（男6・女11）

(4) 調査の方法

- ・通常の「造形あそび教室」と同じように、指導者が

表7 木片と紙のサイズと数
四角の廃材 棒状の廃材

| | 形状(ミリ) 縦×横×(厚) | 枚数 | | 形状(ミリ) 縦×横×(厚) | 枚数 |
|-----|-------------------|----|-----|-------------------|----|
| S-a | 30×20(×3) | 2 | L-a | 87×14×4 | 1 |
| S-b | 33×32(×3) | 2 | L-b | 94×35×4 | 1 |
| S-c | 46×21(×4) | 1 | L-c | 100×29×4 | 1 |
| S-d | 46×30(×4) | 5 | L-d | 108×31×4 | 1 |
| S-e | 60×18(×4) | 3 | L-e | 120×27×4 | 1 |
| S-f | 60×25(×4) | 4 | L-f | 120×20×4 | 42 |
| S-g | 42×35(×4) | 17 | L-g | 120×40×4 | 29 |
| S-h | 60×45(×4) | 2 | L-h | 145×18×4 | 1 |
| S-i | 60×38(×4) | 5 | L-i | 167×28×4 | 1 |
| S-j | 60×60(×4) | 1 | L-j | 198×15×4 | 1 |
| S-k | 80×42(×4) | 2 | 計 | | 79 |
| S-l | 112×55(×4) | 5 | | | |
| 計 | | 49 | | | |

注：いずれも厚さの表記は木片の場合のみである。

三角の廃材

| | 形状(ミリ) 底辺×高×(厚) | 枚数 |
|-----|--------------------|-----|
| T-a | 55×33×(4) | 280 |
| T-b | 70×40×(4) | 370 |
| T-c | 70×59×(4) | 16 |
| T-d | 70×70×(4) | 20 |
| 計 | | 686 |

その日の題材や材料について説明し、2名の教諭の補助のもと造形活動を進める。

- ・園児の活動が始まった後、研究協力者が随時ビデオカメラで撮影する。その際園児の活動の妨げにならないように留意するとともに、撮影角度に配慮し、できる限り手元と製作物を中心に撮影する。
- ・撮影データをもとに、個々の子どもが、材料の形から見立てて表現したものと、材料を並べたり組み合わせたりして構成した物の表出の比較を行う。

(5) 実施日時

第1回 2023年3月8日(水) 14:00～15:00

第2回 2023年3月15日(水) 14:00～15:00

(6) 題材名

第1回「いろいろな形の紙で遊ぼう」

第2回「いろいろな形の木切れで遊ぼう」

(7) ねらい(1・2回目共通)

○材料の形からの発想して、何かに見立てて絵を描いたり、組み合わせたり、並べたりして表現するなど、思い思いの活動を楽しむ。

(8) 準備物

(1回目) 厚紙小片(約800枚)

(2回目) 木片(約800枚)

(1・2回目共通) 厚紙(台紙用)、ボンドタッチ、ポスカ、新聞シート、持ち帰り用紙袋

(9) 活動の流れ

- ・様々な形の材料(紙・木)がたくさんあること知り、これらの材料を使って何ができるかを考える。
- ・使ってみたい材料(紙・木)を選び、台紙の上に置き、自由に操作する。
- ・接着剤やペンを使って材料や台紙に絵を描いたり、色をつけたりする。

(10) 結果と考察

2回の実践について、1回目の参加者は25名、2回目は22名で行った。まず、それぞれの回で使用した材料の総数を集計すると、(表8)のような結果となった。四角と棒状の材料については、使用数にほとんど差が無いが、三角の材料について、2回目の方が参加人数が少ないにもかかわらず、使用数が大幅に増加した。

次に、個々の表現について、見立てて表現した物の表出数と、木片を並べたり組み合わせたりして遊んでいると判断できる構成遊びの有無について集計をした。(表9)

表8 材料の使用数

| | 紙 | 木 |
|-------|-----|-----|
| 四角の材料 | 49 | 42 |
| 棒状の材料 | 78 | 69 |
| 三角の材料 | 146 | 223 |
| 計 | 273 | 334 |

表9 見立て表現と構成的な表現の表出

| | 1回目(紙) | | 2回目(木片) | |
|----|-----------|--------|-----------|--------|
| | 見立て表現の表出数 | 構成的な表現 | 見立て表現の表出数 | 構成的な表現 |
| A児 | 2 | | 2 | |
| B児 | 3 | | 3 | |
| C児 | 0 | ○ | 0 | ○ |
| D児 | 4 | | 5 | ○ |
| E児 | 1 | ○ | 4 | ○ |
| F児 | 0 | ○ | | |
| G児 | 0 | ○ | 1 | ○ |
| H児 | 0 | ○ | | |
| I児 | 0 | ○ | 0 | ○ |
| J児 | 2 | | 3 | |
| K児 | 3 | | | |
| L児 | 6 | | 5 | |
| M児 | 4 | | 5 | |
| N児 | 3 | | 2 | |
| O児 | 3 | | 3 | |
| P児 | 1 | | 6 | |
| Q児 | 1 | | 3 | ○ |
| R児 | 1 | | 4 | ○ |
| S児 | 2 | | 3 | |
| T児 | 1 | | 3 | |
| U児 | 2 | | 8 | ○ |
| V児 | 7 | | 5 | |
| W児 | 2 | | 2 | |
| X児 | 1 | | 1 | ○ |
| Y児 | 3 | ○ | 3 | ○ |
| 計 | 52 | 7 | 71 | 10 |

そして、それぞれの活動で材料を何に見立てたのかを一覧にしたのが、(表10)である。

これらの結果から、まず、木片を用いた場合の方が、材料の使用数が増えた原因として考えられるのが、構成遊びに取り組んだ子どもの人数が増えた事と、その

表10 見立てられた物

| | 見立てられた物 |
|----|--|
| 紙 | ・家(22)・人(7)・魚(8)・チョウ(4)・ウサギ(2) ・アイス(1)・リボン(1)・傘(1)・鳥(1)・ヨット(1) ・星(1)・不明(3) |
| 木片 | ・木(10)・家(7)・部屋(8)・遊具(4)・リボン(4) ・パフェ(3)・ポケモン(3)・ヨット(3)・クジラ(3) ・車(2)・人(2)・テーブル(2)・イス(2)・花(1)・鳥(1) ・チョウ(1)・パラソル(1)・迷路(1)・道(1)・尻尾(1) ・不明(11) |

活動内容が充実したことによるものである。例えば、X児の紙の活動の場合、画面に2枚の棒状の紙を貼って、あとは周りに人物を描く活動に終わってしまい、十分に材料を活用しているとは言えなかったが、木片を使った活動では、三角の木片を繰り返して並べる活動を楽しみながら、最終的には並べた形を迷路に見立てるなど、材料の活用がなされていた。(写真1)また、他の子どもの表現でも、紙ではあまり見られなかった、組み合わせるとか、重ねるとかの操作が木片では見られた。

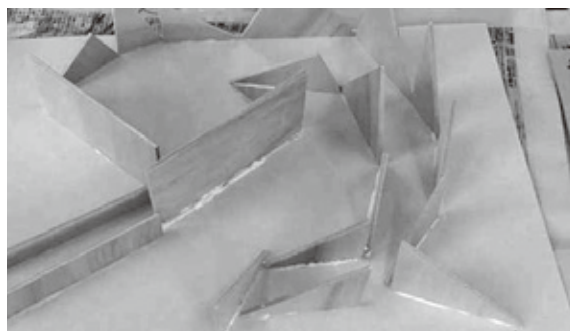


写真1 木片の迷路 (X児)

そして、見立て表現の表出についても、表出延べ数としては、木片を用いた場合の方が、約4割増加し、見立てた物の種類も、11種類から20種類に増えた。また、見立ての特徴として、紙の実践では見られなかった「木」とか「部屋」「遊具」「テーブル」「イス」など、木から連想されるものが多く作られていた。(写真2)さらに、それぞれの見立てが、紙の実践の時よりも色



写真2 テーブルや椅子のある作品（B児）

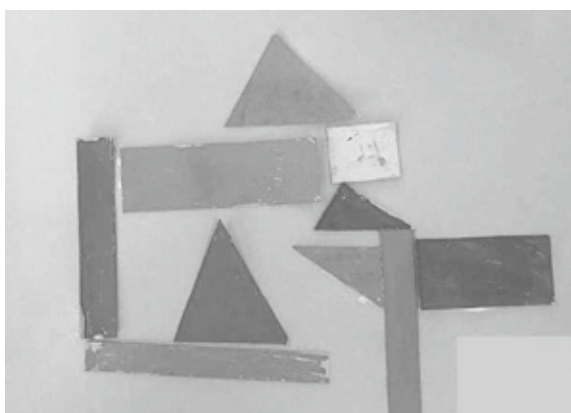


写真3 紙（上）と木片（下）の表現の違い（G児）

を多く使ったり、細部までこだわって表現したりするなど創造的で、楽しみながら作っている様子が感じられた。（写真3）

6. 総括

廃材を用いた造形遊びの実践を通して、材料の形や

数が同じであっても、その材質によって、行為や表出する表現に差異が生じることがわかった。木片を用いた実践の方が、紙を用いるよりも構成遊びを楽しむ姿が多く見られ、発想豊かに見立てる活動を行うなど、総合的に見て、子どもの創造意欲も高く活動も活発であった。

しかし、この度の実践で得られた結果だけでは、その違いが、木片という廃材によるものなのか、単に紙と木という材質の違いによるものなのかの判断はできなかった。特にこの度用いた廃材が、厚さがほぼ均一で、同一の形が多くあるものだったので、製材所等で加工の際に出る不定形の木片とは異なるものであった。廃材については、「日常生活の中で頻繁に利用され、その本来の役目を終えた後に子どもの造形活動に用いられる材料」と定義しておきながら、実践で用いた材料が、この定義に当てはまらない部分があり、廃材と言うよりも、生産工程で生じた端材に近いものであったという点は、反省せざるを得ない。

しかし近年、環境問題や企業のコンプライアンスの面から、生産工程で生じた端材も廃棄するのではなく、教育現場等で有効に活用しようとする動きがある。¹³⁾ また一方、牛乳パックなどの廃材については、食品アレルギーの観点から、園での収集を取りやめる例もあるという。¹⁴⁾ 今後、今回実践に用いた木片も含め、「廃材」あるいは「端材」の定義を再検討しながら、乳幼児の造形活動における有効利用について、さらに考えていきたい。

謝 辞

本実践研究にご協力いただいた2022年度 美作大学附属幼稚園特別教室「造形あそび教室」の参加園児およびその保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。

参考文献・資料

- 1) 文部科学省（2017）「幼稚園教育要領」第1章 総則 第1 幼稚園教育の基本2
- 2) 前掲1）第2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」

- 3 (10) 豊かな感性と表現
- 3) 中田稔 (2021) 「図画工作科における廃材利用の変遷」美作大学・美作大学短期大学部紀要第66号 p131-p140
- 4) 津山市保育協議会 (2018) 「子どもを主体とした遊びと環境」平成30年度 研究部会研究集録p1-p12
- 5) 中川香子・清原知二 編 (2018) 『保育内容 表現 第2版』株式会社 みらい
- 6) 『新 幼児と保育』小学館 2021 4/5号-2022 2/3号
- 7) 『新 幼児と保育 増刊0・1・2歳児の保育』小学館 2021夏号-2022春号
- 8) 前掲7) 2021秋冬号p7
- 9) 村田夕紀 (2012) 『0・1・2歳児の造形あそび 実践ライブ』ひかりのくに株式会社
- 10) 村田夕紀・内本久美 (2015) 『2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ』ひかりのくに株式会社
- 11) 村田夕紀 (2011) 『3・4・5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ』ひかりのくに株式会社
- 12) 中田稔 (2018) 「幼児の造形活動における教材研究や教材開発の在り方」美作大学・美作大学短期大学部紀要第63号p123-p130
- 13) マスキングテープを製造するカモ井が、製造過程で発生する「ログロール」の両端の「ヘタ」と呼ばれる部分をワークショップや教育用に詰め合わせにして商品化している例などがある。
- 14) 『教育美術』(2020.10) 竹井史 「「3A」教材開発の留意点とポイント」 p14-p18